



動物用直腸式体温計サーモビジョン 2 TV-18Q1

水で丸洗いできる
防水仕様

視認がしやすい
バックライト付き

聞き取りやすい
お知らせ音



仕 様

製品名	動物用直腸式体温計 サーモビジョン 2 (動物用一般医療機器)
型式番号	TV-18Q1
測定方法	実測式
検温部位	直腸
定格及び電源	1.5V、LR44
電池寿命	約 4,500 回
測定範囲	32.0 ~ 42.9℃
測定精度	±0.1℃
体温表示	℃
測定時間	約 20 ~ 30 秒
機能	前回値メモリ機能 自動電源オフ (9分後) EL パネルバックライト
使用環境温度 / 湿度	10.0 ~ 40.0℃ / 15 ~ 95%RH
保管環境温度 / 湿度	-25.0 ~ 60.0℃ / 15 ~ 95%RH
防水性能	IP67 (耐塵・防浸形)
寸法	約 100 x 194 x 20 mm
質量	約 45g
付属品	取扱説明書 テスト用電池 (LR44)

製造業登録証： 2製造療第17号
製造販売業許可証： 5 製販療Ⅱ第201号

製造販売元
株式会社アステック
茨城県つくば市東新井 14-3



お問い合わせ先

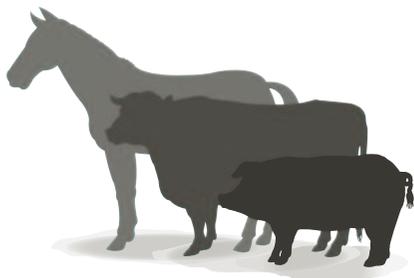


動物用直腸式体温計サーモビジョン 2

動物の体温を、簡便に
素早く測定することで
検温時に動物へ与えるストレスを軽減します。

動物の健康管理を行い
病気の早期発見をすることで
安定した生産性の確保につながります。

ThermoVISION2 は、動物の
健康管理をお手伝いします。



体温とは？

体温とは、体の温度のことで、本来体温は脳や内臓、血液など、体深部の温度（中核温）のことをさします。体表面の温度は、気候や環境の影響を受けやすいため安定していません。中核温は、脳や心臓などの大切な臓器の働きを保つために維持していますが、日常的に測ることは困難です。そこで、より中核温が反映されやすく簡便に検温できる部位として、腋窩（脇の下）、口（舌下）、耳（鼓膜）、直腸などが用いられています。

どこで検温するのがいいの？

人の場合、測定しやすい腋窩で測定しますが、腋窩の温度は、そのままでは体表面の温度しか測れません。脇の下をしっかりと 10 分以上密閉し、これを測るのが正しい検温方法です。しかし動物は体を毛で覆われているので、直腸で体温を測るのが一般的です。また、空気に触れない直腸は、中核温をすばやく反映するので、安定した体温が測定できます。

動物の平熱は？

豚や牛の体温は人よりも少し高く 38.0 ~ 39.0℃程度、馬は 37.5 ~ 38.0℃程度が一般的ですが、動物により個体差があり、また年齢に伴って新陳代謝が低下するため平熱は下がります。

体温は変動します

人や豚・牛・馬などの恒温動物は、体温が一定の温度から大きく変動すると生命の危機に立たされます。人は体温が上昇した時、汗を流して体温を下げますが、豚・牛・馬は発汗による体温調節が得意ではありません。そのため、気候等の外的要因の影響をうけやすく、なかでも夏季の暑熱ストレスは、恒温の維持を困難にします。

また、人の体温が 1 日の時間帯により変動するように、豚・牛・馬の体温も変動します。朝は比較的体温が低めなのに対し、夕方ごろは少し高く、眠るころになるとまた少し下がってきます。平熱を測るときは、毎日同じ時間帯に確認すると、正しい体温の変化を把握できます。

定期的に体温を測ることで、
体調悪化の早期発見につながります。

体温を測って 健康管理を

動物の体温の異変に気づくためには

平熱を把握することが大切です。さまざまな条件で変動する体温。その平熱の範囲を知ること、時間を決めて平熱を把握することが、体調管理に大きく役立ちます。

動物の中には、目に見える兆候がなくても体温が上昇していることも多く、体温を測る事で早めの対策に取りかかれるケースが少なくありません。また逆に、低体温の動物も何らかの体調不良を起こしていることが考えられます。体温測定を習慣付ける事で、早期の対策が可能になります。

体温計の落下防止にストラップ（別売）を

尻尾にストラップ（別売）を取付けることで、体温計の落下防止ができます。（注：クリップは付属していません。）

